
バイブレーション

kakio

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バイブレーション

【Nコード】

N2711F

【作者名】

kakio

【あらすじ】

休日の朝、目覚ましによって不覚にも起こされた男はあることを想起する。

頭の右側面に振動を感じ、地震だと布団から飛び起きた。

フラフラする。これは結構な揺れだ。ヤバイ。

上から頭に物が落ちてきて、わけもわからないうちにあの世に行くのはごめんだったため、机の下にもぐりこんだ。

まったく、休みなのについてねえな、揺れるんなら平日にしろよと、軽い眩暈を覚えながら呪詛をブツブツ唱え、揺れが治まるを待つ。

ズガガガ、ズガガガ。ズガガガ、ズガガガ。

音はするものの、全く揺れていないことに、誠に無様な格好で丸まっている俺は気づいた。

机の下から這い出て音のする方を見てみると、携帯が床と擦れ合って耳障りな音を立てていた。バイブレーションに切り替えたまま、しかも目覚ましをも切るのを忘れていたというわけだ。

低血圧で朝の弱い俺は、自分の過失の馬鹿馬鹿しさを最大限に呪い、携帯の目覚ましを切った。7時半。まったく、もう一眠りするかと思ったところでメールが届いた。目にしたことのないメールアドレス。開いてみる。

「こんばんは、初めまして。あたし、あなたとやりたいの。写真見て、あなたが気に入ってくれたならメールしてね。」

経験すれば分かると思うが、朝っぱらから何所の誰だかもわからない人の性欲を見せられると、心の底からうんざりする。しかも、自分が出会い系サイトに登録したのではないとなればなお更だ。

友人に出会い系サイトでバイトをしていた奴がいる。そいつが言うには、適当に綺麗な女の写真をパソコン内に入ってるフォルダから選んでプロフィールに貼り付け、釣られた男とのらりくらりとメ

ールのやりとりをし、相手が会おうと言ってきたら今日仕事で遅くなるからとか何とか言って逃げ、気のあるふりをして惹き付けてポイントが減らし、無くなったら買わせるとか何とか言っていた。メールのやりとりでさえ、ポイントが必要だと。「クレジットカード、プリーズ」男とメールのやり取りをしていたなんて知ったら、死にたくなるだろうな。全く持って救いがない。全部が全部そうではないとしても、そんな所があると知って出会い系に突撃するのは馬鹿げている。「全く、お前の言うとおりだよ。あんなんやる奴バカじゃねえのと思うね」

そういうわけだから、自発的に出会い系サイトに登録したわけでは断じてない。

懸賞サイトで「メールアドレスを登録するだけで賞品が当たる!」というキャッチフレーズに惹かれて登録したのが運の尽きだった。

それからというもの、今まで経験したことのない怒涛のメール攻勢が続いた。勝手に人のアドレスを次から次へとわけのわからないサイトに登録しているらしく、仕事終わりに見てみると受信BOXに50通を超えるメールが溜まっており、軽い眩暈を覚えた日もあった。あまりに受信しまくるあまり、バッテリーが切れているということさえあった。何日かすれば収まるだろうと樂觀視していたものの、増えはすれど、減りはしなかった。さすがにたまらないと、携帯に疎い俺は弟に頼み込んでどうにかこうにかメール地獄から抜けでたわけだ。

一週間ぶりぐらいの出会い系メールに、またあの喧騒が持ち上がるのかと暗くなっている所でふと気づく。受信時間は19:30となっていた。約12時間もの遅延。過去を思い返してみても、これ程までに遅れて届いたメールは間違いなかった。30分はあったけども。その時は彼女とやり取りをしながら、よく分からないうちに喧嘩になったのでよく覚えていた。

ここまで来ると眠気なんかすっ飛んでしまい、テレビの電源を入れた。デジタル放送に特有な、電波を受信するまでの数秒のブラン

ク。「タイミング悪いのよあなたは。出合った時期がわるかったかもね」ドラマの番宣だかなんだかで、見たことのない女優が激しい口調で見たことのない男優に迫っていた。「別に嫌いになっただけじゃないけどさー、こうすれ違いの日々じゃね。あなたもそう思わない？」男は黙っていた。「だからさ、よかったんだよ」

よくなんかない。よくなんかないんだよ。床が揺れているような気がした。全てが揺らいでるような気がした。携帯が震えているような気がした。頭の中が揺れているのか、世界が揺れているのか、どちらともなのか、どちらでもないのか、まったく持って知るすべがなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2711f/>

バイブレーション

2010年12月1日07時32分発行